

唐津市職員コンプライアンス推進指針

令和4年9月

唐津市

目次

1	策定の背景・趣旨	- 1 -
2	対象	- 1 -
3	コンプライアンスとは	- 1 -
4	目標	- 2 -
5	行動規範	- 2 -
6	点検と改善	- 4 -
7	コンプライアンス・チェックシート	- 5 -

1 策定の背景・趣旨

唐津市においては、令和4年に入って職員による不祥事が相次ぎ、このことにより、市役所に対する市民の信頼を大きく損ないました。

言うまでもなく、唐津市が市政運営を円滑に進めていくためには、市役所と職員に対する市民からの信頼が不可欠です。不祥事の発生は、市民からの信頼を失い、市政運営全般に影響を及ぼします。このことを全ての職員が強く認識し、組織としてコンプライアンスの推進を図っていく必要があります。

唐津市職員コンプライアンス推進指針は、全ての職員が共通認識をもってコンプライアンスを推進することにより、唐津市役所が市民から信頼される組織となることを目指し、職員が常に意識すべき行動規範等を定めるものです。

2 対象

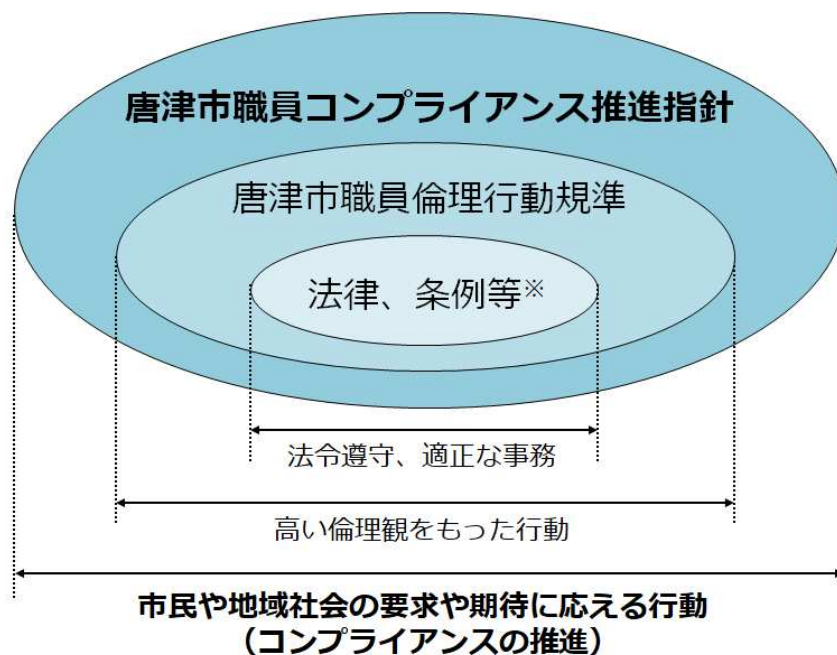
全ての唐津市職員（会計年度任用職員を含む。）

3 コンプライアンスとは

コンプライアンスは、一般的に法令遵守と訳されますが、単に法令だけでなく、組織内のルールを守ることや、高い倫理観を持つこと、そして、地方自治体にとっては、市民や地域社会の要求や期待に添えていくことも含まれると理解されています。

このことを踏まえ、唐津市では、コンプライアンスとは、「法令や社会のルールを守っていくことのみならず、市民や地域社会の要求や期待に添えていくこと」という広い意味で使うこととします。

<コンプライアンス推進のイメージ>



※法令とは、法律、政令、省令、条例、規則のほか規程等も含まれます。

4 目標

私たち唐津市職員は、職員一人ひとりが公務員としての高い倫理観を持ち、社会的責任を自覚し、職員一丸となってコンプライアンスの推進に取り組み、市民に寄り添った、質の高い行政サービスを提供することによって、「市民から信頼される市役所の実現」を目指します。

5 行動規範

目標を達成するために職員一人ひとりが行動する際に、常に意識しなければならない8つの項目を、行動規範として掲げます。

① 法令等の遵守

市職員として、地方公務員法等を遵守し、職務に専念する。

② 公務員倫理の徹底

公務中または公務外において、職員倫理行動規準を遵守し、公務員倫理の徹底を図り、不祥事の防止に努める。

また、社会人として、市民として、社会のルールやマナーを守る。

③ 情報の適正管理

情報の漏えい、紛失等がないよう、情報セキュリティーポリシー等を遵守し、適正な情報の管理に努める。

④ 交通法規の遵守

交通事故を起こさないよう、交通法規や交通マナーを遵守し、安全運転に努める。

⑤ 事務処理ミスの防止と説明責任の徹底

文書規程や文書事務の手引きなどに基づき適正な事務処理を行うとともに、課内のチェック体制を構築し、事務処理ミスの防止に努める。

また、市民に対する説明責任を徹底し、市役所に対する市民の信頼性の向上を図る。

⑥ 接遇の向上

言葉遣い、身だしなみに配慮し、市民に親しまれる職員を目指す。

また、市民に寄り添った行政サービスの提供に努める。

⑦ 良好な職場環境の確保

職員間での声かけやホウレンソウ（報告・連絡・相談）の励行、ハラスメントの防止等に努め、職員が働きやすい職場をつくる。

⑧ チームで仕事をする

組織（チーム）で目標、課題等を共有し、チームで仕事をする。
また、チーム力を高め、より良い仕事ができるよう努める。

6 点検と改善

8つの行動規範の実践状況は、「コンプライアンス・チェックシート」により、毎年度、点検・確認を行い、不足点を改善していきます。

① 職員自身による自己点検

職員は、毎年度、自己点検を行い、その結果を課長等（所属長）に提出する。

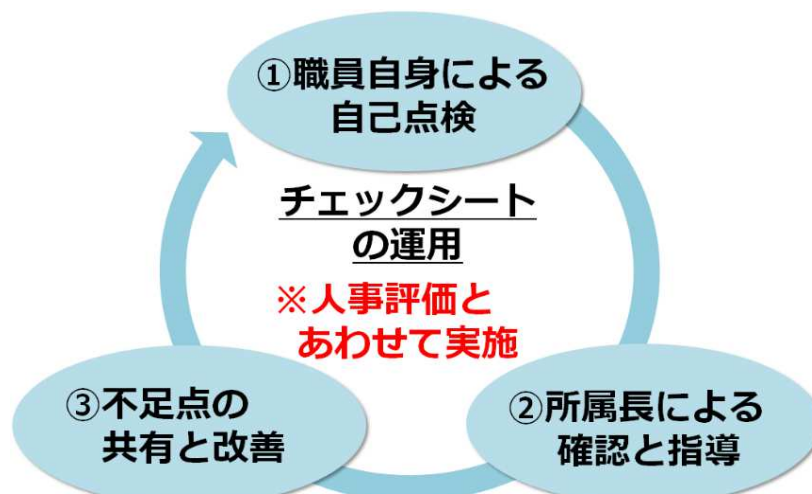
② 所属長による確認と指導

- ・所属長は、チェックシートの結果を確認し、個別に指導する。
- ・所属長は、自己点検の結果及び指導内容を人事課に報告する。

③ 不足点の共有と改善

- ・人事課は、点検結果及び指導状況を部長会議等で報告する。
- ・意識が低い項目、実践できていない項目については、重点的に研修等を実施し、改善を図る。

<コンプライアンス・チェックシートの運用イメージ>



7 コンプライアンス・チェックシート

「コンプライアンス・チェックシート」のチェック項目は、必要に応じて見直しを行っていきます。

コンプライアンスは、守らされるものではなく、職員自身が守るべきものです。守ることで、不祥事をなくすことにつながります。職員は、このことを意識して、形式的なチェックではなく、自身の意識や行動を振り返ってチェックしてください。

※日々の公務または勤務時間外や休暇中において、コンプライアンスに則しているか迷ったときは、次の視点で自問自答し判断します。

- ① 法令等に違反していないか。
- ② 社会の常識、マナーやルールを踏み外していないか。
- ③ 市民に堂々と説明できるか。